

令和5年度

総務企画部の方針書

部名	総務企画部
部長名	小玉 幸平

1. 部の使命(ありたい姿)

政策実現のためのエンジンとなり、市民起点の幸せな地域社会を目指す。	
担当政策	政策7:横手を思い、市民の想いを実現させる創造的な行政経営を進めます
担当施策	3-3:災害に強いまちづくりの推進 5-3:市民が利用しやすい公共交通の充実 6-3:情報を共有する環境の整備 7-1:住民ニーズに対応した成果重視の行政運営の確立 7-3:戦略的・計画的な人材育成と能力開発の充実

2. 部の抱える課題(現状)

<ul style="list-style-type: none">➢大型公共施設2施設(横手体育館・横手市民会館)整備の具体化➢バス路線角間川線やJR北上線など地域公共交通維持への対応➢行政マネジメント(行政DX・行財政改革・職員の人材育成等)の推進➢災害への対応と地域防災への取り組み➢多様な情報発信手段を効果的に活用する

3. 今年度の『スローガン』

業務遂行に横串を通そう ⇒ 人口減少・行政DX・情報発信・行政改革

4. 今年度の方針

<ul style="list-style-type: none">➢次世代へつなぐ大型事業を着実にすすめる。➢人口減少を抑え、負けないためのまちづくりに寄与する。➢安心して暮らせるまちづくりに寄与する。
--

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	大型公共施設整備の推進
	取組内容	➢大型公共施設(横手体育館・横手市民会館)整備の具体的推進 実施設計の完成、発注方式の検討と実施、運営計画の作成、整備事業に対する市民周知
(2)	実現したい成果	人口減少を抑え、負けないための取り組み
	取組内容	➢人口減少対策 よこての未来創生プロジェクトの継続 ➢行政DXの推進(市民向け) ・行政手続きオンライン化の手を緩めない/デジタル田園都市国家構想交付金事業の実施 ➢市の魅力発信の推進 (多様な発信手段の運用/地域おこし協力隊等)
(3)	実現したい成果	市民の皆様が安心して暮らせるための取り組み
	取組内容	➢横手市地域公共交通計画の策定及び代替交通の検討 ➢地域防災への取り組み(地域防災リーダー養成・災害要支援者情報の連携) ➢市政情報発信の推進 (多様な発信手段の運用(防災情報含む)/コミュニティFM/防災ラジオ不感対策) ➢行財政改革の推進と職員の能力向上への取り組み(公共施設使用料改定準備/研修制度や人事評価)

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

(1) 大型公共施設(横手体育館・横手市民会館)整備の具体的推進

8月の入札公告を経て、10月11日には横手体育館の施工業者が決定し本格的な建築工事がスタートした。また、運営について関係各課での定期的な協議をはじめ、特に市民会館については専門のアドバイザーを委嘱して運営について具体的な検討を進めている。

(2) 人口減少を抑え、負けないための取り組み

よこて未来創生プロジェクトについては、若手職員からなる個別部会を設置し、9/15の説明会開催を皮切りに実現性や予算等にこだわらない事業の検討等を行っている。

デジ田交付金事業については、シームレス避難所事業に関し、システムの仕様等の課題解決にやや時間を要したが、発注手続きが終了し事業が実質的にスタートしている。

(3) 市民の皆様が安心して暮らせるための取り組み

横手市地域公共交通計画の策定については、計画骨子案を市の内部決定を経て地域公共交通活性化協議会で協議済。今後は、具体的な事業を含めた素案づくりに着手する。

災害関連としては、7月大雨に対する対応があり避難情報発令地域に関する検証として聞き取り調査を行った。また、市民の防災意識向上への取り組みとして市報9月号では「大雨災害から身を守る」を特集した。

行財政改革関連については、行政DXに通じる業務効率化の取り組みとして、行財政改革関連については、行政DXに通じる業務効率化の取り組みとして、AI会議録作成システムを8月より本稼働。また、生成AI(Chat-GPT)についても試験導入・検証中。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1) 大型公共施設(横手体育館・横手市民会館)整備の具体的推進

市としてこれまで着手したことのない超大型の工事であること及び市民の皆様から質の高い公共工事の確保を求められている昨今の状況を踏まえつつ、今年度計画どおり工事が進められるよう進捗管理には十二分に留意していく。

(2) 人口減少を抑え、負けないための取り組み

少子化対策については、よこて未来創生プロジェクトの内容や国県の事業や予算動向等に留意しつつ、事業の具体化に向け当初予算編成作業に望みたい。

デジ田交付金事業については、引き続きシームレス避難所事業及びリモート相談窓口事業の運用開始に向けシステム構築と運用の取り組みを進める。

市政情報発信について、「市報よこて」を市報の届かない方や他の自治体に住んでいる方にも読んでもらうために(株)ジチタイワークスが運営している「マチイロ」アプリへ市報を配信する。

(3) 市民の皆様が安心して暮らせるための取り組み

横手市地域公共交通計画については、パブリックコメントの実施や地域公共交通活性化協議会及び市議会から直接ご意見をいただきながら引き続き策定作業を進め、来年3月の計画策定を目指す。

危機対策については、台風や大雪等の各種災害への備えは当然のことながら、引き続き冬季防災訓練など地域防災への取り組みを実施していく。

行財政改革関連については生成AIの導入に向けたルールづくりを行う。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

(1) 大型公共施設(横手体育館・横手市民会館)整備の具体的推進

・新横手体育館については、入札/契約～着工～運営計画の策定とスケジュール通りに運ぶ見通しであり、引き続き計画どおり工事が進められるよう進捗管理には十分に留意していく。

・新横手市民会館については、工事契約に向け種々取り組んだが、1回目は入札不調(不落)及び予算の継続費補正をして臨んだ2回目は入札中止という結果となり、契約・着工に至らずやむを得ず1年度程度遅らすこととした。その間財源の課題も発生したため、令和6年度では見直し設計の予算を措置するとともに、財源の確保に向け中心市街地活性化計画を策定の上、暮らし賑わい再生事業の採択を目指して取り組み、具体的な整備に向けて取り組みたい。

(2) 人口減少を抑え、負けないための取り組み

・少子化対策については、よこて未来創生プロジェクトの取り組みを経て令和6年度予算に新規・拡充の事業を措置できる見込みである。令和6年度は事業の周知に努め、より多くの方に利用していただけるよう実施するとともに国・県・他自治体等の事業や予算動向等情報収集に努めつつ、少子化対策を進めていきたい。

・デジ田交付金事業については今年度対象事業が完了となり運用開始となったが緒についたばかりであり、令和6年度から各ツールの活用を本格化する。また、同交付金を活用しガバメントクラウド構築を本格化させていく。

・市政情報発信について「マチイロ」アプリの活用が開始され発信ツールの充実が図られた。

(3) 市民の皆様が安心して暮らせるための取り組み

・横手市地域公共交通計画については予定どおり3月に計画策定完了見込みであり令和6年度から新たな計画で公共交通施策をスタートさせる。なお、令和6年度の個別課題として、民間路線バス撤退に伴い現在代替運行している角間川線について見直しする必要がある。

・危機対策については、水防計画の改正を行ったほか、横手市地域防災計画及び横手市国民保護計画の変更作業を進め、各計画の改定を行った。また、デジ田交付金事業を活用したシームレス避難所システムを仮運用しつつ冬季防災訓練を十文字地域で実施し、台風や大雪等の各種災害への備えと地域防災の向上を図った。また、今年1月1日に発生した能登半島地震への対応として、物資支援や市職員派遣を実施した。

・行財政改革関連については生成AI利用に関するガイドラインを策定した。また、令和6年度にはAIを活用した会議録システムやChatGPT-4を活用した自治体AI「ZEVO」を本格導入する。今後は職員が生成AIをより良く活用できるようフォローアップしていく必要がある。